# 海洋プラスチックごみ削減に向けて

## 広島県「GSHIP」の取り組み

瀬戸内海に流入する海洋ごみは、年間約4千500㌧。その66%にあたる約3千㌧が陸から瀬戸内海に流れ込んでいます。

広島県では、2050年までに瀬戸内海に新たに流入する海洋プラスチックごみをゼロにすることを目標に掲げ、2021年（令和3年）6月23日、「～みんなで守ろう、未来へ。美しく恵み豊かな瀬戸内海を～2050輝くGREEN SEA瀬戸内ひろしま宣言」を行いました。同時に、宣言の実現に向けて必要な取り組みを検討・展開するため、企業・団体などを参画メンバーとするプラットフォーム「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま プラットフォーム（通称：GSHIP）」を設立しました。広島県内の企業・団体に呼び掛けを行い、設立から3年が経過した2024（令和6）年7月18日現在、会員数は130団体となり、海洋プラスチックごみに係る課題解決に向けた幅広い取り組みを展開しています。

### 4つのキーアクション

GSHIPでは、海洋プラスチック削減のためのアプローチとして、4つのキーアクションによる対策を進めています。

**①プラスチックの使用量削減**

ワンウェイプラスチック（一度だけ使用して廃棄されるプラスチック製品）の削減、海洋生分解性プラスチックや紙などへの転換を促進する。さらに、3R+Renewable（リニューアブル：プラスチックの使用量削減・再利用・リサイクルの3Rに、再生素材や再生可能資源（紙・バイオマスプラスチックなど）への切り替えを加えたもの）の拡大。

**②プラスチックごみの流出防止**

大型ショッピングセンター、スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどで見られるようになったペットボトルなどの自動回収機の設置や、リサイクルの学習会などによる啓発活動の実施。

**③プラスチックごみの清掃・回収**

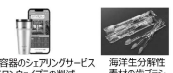
企業や市町村などと連携した効果的な清掃、回収。

**④情報の収集、発信、共有**

各種イベントやホームページで、先行事例やプラットフォームでの取り組み、参画企業などの取り組みの情報を発信。先進的な取り組みの研究・紹介、環境学習の開催。

「GSHIP」4つのキーアクション

**①プラスチックの使用量削減**
- ワンウェイプラスチックの削減や，代替素材（生分解性プラ・紙等）の開発・普及促進
- プラスチック資源の３Ｒ＋Renewableの拡大，　高度化 等


飲用容器のシェアリングサービスによるワンウェイプラの削減　海洋生分解性素材の歯ブラシ

**②プラスチックごみの流出防止**
- IoTを活用したスマートごみ箱や新機能リサイクルボックスなどの普及促進、ナッジを活用した周辺の散乱防止に係る効果検証の実施　等

IoTを活用したスマートごみ箱　新機能リサイクルボックス

**③プラスチックごみの清掃・回収**
- 企業，清掃団体等と連携した効果的な清掃，回収
- 参画会員と地域の清掃団体・市町等の清掃活動とのマッチングや一元的な情報発信　等

**④情報の収集，発信，共有**
- HPやイベント等での情報発信（先行事例，プラットフォームでの取組，参画企業等の取組等）
- 環境学習の実施　等

「海ごみ統一情報発信リイト」

宮島口と宮島に設置されたスマートごみ箱『SmaGO』。通信機能を持ち、ごみの量を把握できるほか、ごみを圧縮して容量を確保するなど、収集の効率化や流出防止が期待できる（上）、4つのキーアクションで取り組みを進める（下）。

## 私たちにできる海洋プラスチックごみ対策

素材メーカーや製造メーカーでは、素材の開発や見直し、素材の使用量の削減などさまざまな取り組みを行っています。身近なものでは、ラベルレスのPETボトル飲料や、薄いPETボトルなどです。

私たちにできることは、メーカーの取り組みを知り、環境配慮製品を選ぶことです。また、洗浄・分別して適切なリサイクルラインに乗せることも重要な取り組みです。流通メーカーや小売店などの食品トレーやPETボトルの回収システム、地域の有価資源物回収などを活用しましょう。

各地域の清掃活動も、海洋ごみ流出抑止に繋がります。引き続き、継続的な美化活動をお願いいたします。

GSHIPでは、住民と企業の連携を考えており、地域住民が実施する美化活動において、企業の従業員が参加し一緒に取り組める美化活動の情報収集と発信を継続して行っています。

また、GSHIP主催の美化活動を予定しています。9月25日（水）には、会員企業に呼び掛けて、尾道市の梶ノ鼻海岸で、10月14日（祝月）には一般からの参加を募り、宮島包ヶ浦海岸において200人規模で、ともに清掃活動を企画しています。

『2050年までに新たに瀬戸内海に流入する海洋プラスチックごみをゼロにする』というのはとても高い目標ですが、当協会も広島県や公衛協の皆さまと一緒に、実現に向けた地道な取り組みを進めていきたいと思います。

（地域活動支援センター）

PETボトル飲料のラベルレスや省資源化（上）、紙製ストローやマドラー、木製のスプーン、形状変更による省資源化など、環境配慮製品が身近になってきている（下）。

## 専門研修「効果的な広報の仕方コース」開催

### 作成物活用に向けてデジタルデータを提供

令和6年7月4日（木）、広島県公衆衛生会館において専門研修「効果的な広報の仕方コース」を開催し、3公衛協2TEAMから8人が参加しました。なお、本研修は地球温暖化防止活動推進員ステップアップ研修も兼ねています。

企業や他団体の作成したチラシを見ながら学習

今年度は、団体の活動をPRするポスターの作成をテーマとし、取り組んでいる事業や活動全般をPRする広報物を作成しました。研修では、広報ツールの役割と手法に関する基礎的な知識のほか、より魅力的な広報物を作成するための方法として、写真の撮り方、色の使い方やレイアウトのコツなどについて学習しました。また、作成した広報物の発表では、良いところや改善点など、参加者同士の意見交流が活発に行われ、よりよい広報物の作成につながりました。

参加者からは、「いいものができ、事業のPRにつながりそう」「発表時の意見がとても参考になり、アイデアをたくさんもらえてよかった」「今回作成したものを基に、来年度以降も継続して作成していきたい」などの意見をいただき、充実した研修となりました。

なお、本研修で作成したポスターは、今後の活動に活用していただくため、環保協がデジタルデータ化し、参加団体へ提供するとともに、環境保健夏季大学で展示して、参加者に研修の成果を披露しました。

参加団体の皆さまが、継続して広報物を作成することを期待します。

（地域活動支援センター）

作成した広報物を順番に発表し、意見交流しながら作り手の思いと読み手の受け取り方、改善アイディアなどを述べあった。